

2017年5月15日掲載

急な痛み

つらく苦しい歯根膜炎

人のかみ合わせや歯の形は年齢とともに変化していきます。体の痛みの中でも歯の痛みは耐え難く、痛みの強さもさまざまです。

歯痛の中でも特に歯根膜炎による痛みは激痛になることが多く、炎症の程度によっては治療や投薬をしてもすぐに痛みが引かず、つらく苦しい痛みの一つです。

歯は構造上、骨の中に根が埋まっていますが、骨と根の間には歯根膜という膜があります。この膜の働きによって、かんだ時に「硬い」「軟らかい」などの感覚を得たり、髪の毛1本程度の厚さを感じ取る、高度なセンサーの働きをする器官でもあります。

歯根膜炎の起こる原因としては、むし歯の進行により細菌が歯根膜に感染し、炎症が起こる場合があります。歯の治療後にも痛みがしばらく続くこともあります。

次に、歯周病になっている歯の歯周ポケットから感染して炎症が起こる場合があります。急に歯がグラグラして歯肉が腫れてくることもあります。

他には、歯ぎしりによって歯に強い力が加わり、歯根膜が外傷性の炎症を起こす場合や、健康な歯でも、ときとして知覚過敏と重なって症状が出る場合があります。

子どもから大人まで歯の痛みは耐えることが難しく、痛み方も症状もさまざまです。歯の違和感や痛みが軽度なうちに早期に受診して、重症化を予防することが大切です。